

2012年 東アジアにおける 日本と台湾

—台湾史研究の現段階と今後の課題—

日時

2012年7月1日(日)

9:00~17:00

場所

中京大学センタービルヤマテホール

主催：中京大学社会科学研究所、中京大学社会科学研究所台湾史研究センター

問題提起

台湾史研究三十年の経験からの2012年認識 檜山 幸夫氏 (中京大学社会科学研究所長)

第一セッション 日台関係の現段階とこれからの展望 —日華国交断絶から40年—

2012年の東アジア国際環境と台湾における日本研究 —政治史の側面から— 川島 真氏 (東京大学大学院准教授)

2012年の東アジア国際環境と台湾における日本研究 —文化史の側面から— 松金 公正氏 (宇都宮大学大学院准教授)

第二セッション 日本統治下台湾の官僚と日本人

台湾総督府の官僚と在台日本人社会 駒込 武氏 (京都大学大学院准教授)

台湾の震災と台湾総督府官僚 —被災調査報告の共有化と被災記録の伝承— 東山 京子氏 (中京大学社会科学研究所特任研究員)

日本統治下台湾における医師社会の階層性と学歴主義 鈴木 哲造氏 (国立台湾師範大学博士後期課程)

第三セッション 台湾の近代化と台湾人アイデンティティの形成

日本統治下における台湾人社会的リーダー階層 呉 文 星氏 (国立台湾師範大学教授)

清国人・日本人・中華民国人だった一人の台湾人の記録 中田 敏夫氏 (愛知教育大学教授)

台湾に現れた3つの郷土教育 —郷土概念の相違に注目して— 林 初 梅氏 (大阪大学大学院准教授)

第四セッション 日本と台湾における戦没者慰霊の国際比較

台湾の忠烈祠と日本の護国神社にみる戦没者慰霊の国際比較 蔡 錦 堂氏 (国立台湾師範大学准教授)

戦没者追悼と慰霊の空間 —都市の招魂祭をめぐる諸問題— 本康 宏史氏 (石川県立歴史博物館学芸課長)

総括討論